

Title	総合研究所紀要(1～15号)総目次
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.15, 1999.3 : (49)-(58)
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3444
Rights	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院大学総合研究所紀要

総目次（第1号—第15号、1990-1999）

◆第1号（1990）

序	大木英夫
I	
教皇権と公会議主義	渡邊守道
近代的経済人の心理と性格をめぐって ——アダム・スミスの道徳哲学と経済学	梅津順一
バランス重視の世界経済システム ——必要なポリティカル・エコノミー	佐藤公久
わたしの学問的自伝 I	隅谷三喜男
アジアにおけるキリスト教 ——宗教の比較考察	ヨアヒム・マッテス
II	
現代における政治の課題	京極純一
霊的なるものの回復	大木英夫

◆第2号（1991）

序	大木英夫
I	
トレルチ思想の今日的意味	近藤勝彦
—社会科学者の学問的自伝	隅谷三喜男
宗教史から宗教社会学へ	ヨハネス・ヴァイス
シンポジウム・ヴェーバーとトレルチの宗教社会学をめぐって	
マックス・ヴェーバーの宗教社会学	フリードリッヒ・H・テンブルック
マックス・ヴェーバーとドイツの宗教社会学	ヨアヒム・マッテス
エルンスト・トレルチにおける「人格と宗教」	近藤勝彦
II	
東欧の民主化と社会主義の変貌	河上民雄
日本国憲法における「法の支配」	酒井文夫
Von der Religionsgeschichte zur Religionssoziologie …Ernst Troeltsch und Max Weber…	Johannes Weiß
Max Webers Religionssoziologie …damals und heute…	Friedrich H. Tenbruck
Max Weber und Religionssoziologie in Deutschland	Joachim Matthes

“Persönlichkeit und Religion” bei Ernst Troeltsch

Katsuhiko Kondo

Textbook Selection. Pedagogical Exercises and Teacher

Burn Out

Dale T. Griffiee

Seelsorger und Seelsorge in einer Permissiven Gesellschaft

Tadayoshi Araki

◆第3号 (1993)

序 大木英夫

I

デモクラシーと法制度 酒井文夫

——違憲審査制を視座の中心として

東アジアのデモクラシーと開発独裁 隅谷三喜男

——韓国・台湾と中国

エルンスト・トレルチにおける自然法の問題 近藤勝彦

——特にデモクラシーとキリスト教の関わりをめぐって

デモクラシーとピューリタニズム 大木英夫

II

国際社会における日本の役割とキリスト教 福田歆一

Some Aspects of Higher Education in the U. S. A.

Donald S. Stanton

The Problem of Physical Evil

Evert D. Osburn

A Study of Will and Going To in Plans and Predictions

Dale T. Griffiee

◆第4号 (1994)

ラインホルド・ニーバー生誕100年記念

感謝の言葉——序にかえて 大木英夫

I

ニーバー神学とマルクス主義——1930年代のニーバー 高橋義文

力と愛——ニーバー思想の核心 佐藤敏夫

ラインホルド・ニーバーにおけるデモクラシーの神学 近藤勝彦

ニーバーの思想——人間と歴史への洞察 武田清子

シンポジウム ニーバーとアメリカ——『アメリカ史の皮肉』をめぐって

『アメリカ史の皮肉』にみるR・ニーバーのアメリカ理解 鈴木有郷

「ニーバーとアメリカ」とはどういうテーマなのか 平田忠輔

ラインホルド・ニーバーとアメリカの政治 千葉 眞

ニーバーとアメリカ 佐々木毅

シンポジウム討議 (司会)大木英夫

II

政治学・経済学統合の理念	
政治学と経済学の統合は可能か、また必要か	田中 宏
政治学と経済学の統合は可能か	根岸 毅
異人論へ向けて——比較文化論序説	島田信吾
旧東ドイツに見られる社会の再帰的プロセスとマス・コミュニケーション	アンドレス・ファイゲ
ニーバーの「冷静を求める祈り」	高橋義文
わたしの祈りと証し——ニーバーの祈りについて	速水 優

◆第5号 (1994)

序	大木英夫
I	
英米デモクラシー思想の起源——J・ロックをめぐる	永岡 薫
宗教寛容とデモクラシー——ミルトンとR・ウィリアムズ	大木英夫
イギリスとアメリカの民主主義の現実	平 良
現代中国における民主主義	秋吉祐子
首領制国家における首領と人民	
——愛と忠孝一心の交換に見る北朝鮮の国家社会観	鐸木昌之
II	
ガルストとその時代	保谷六郎
Goals and Objectives in Language Education	
	William G. Kroehler
Language Testing	Randolph H. Thrasher
Curriculum For English Language Education at Seigakuin	
University & Joshi Seigakuin Junior College	
	Dale T. Griffiee
The University of Tsukuba and its Foreign Language Center	
	Takashi Shimaoka
Higher Education in Britain	Graham Howes

◆第6号 (1995)

序にかえて	
ロシアにおける信教の自由の可能性	霜田美樹雄
ロシアにおけるデモクラシーの可能性	松井弘明
デモクラシーと国体——日本におけるデモクラシーの可能性	吉田博司
近代ドイツとデモクラシー——G・イエリネックを中心として	初宿正典
中東におけるデモクラシーの可能性——アラブ地域	富田広士
イギリス・ピューリタニズムとデモクラシー	

—A・D・リンゼイのデモクラシー思想をめぐって

—追記 A・D・リンゼイと現代の思想状況 永岡 薫

ニクラス・ルーマンの宗教社会学をめぐって

①世俗社会における宗教 W・パネンベルク

②宗教の普遍妥当性——ルーマンからパネンベルクへ

N・ルーマン

③宗教の普遍妥当性——パネンベルクからルーマンへの返答

W・パネンベルク

ホモ・ユリディクスとホモ・エコノミクス

—コミュニケーション維持のための擬制 グンター・トイブナー

The Role of Testing in a Curriculum

Report by William G. Kroehler

Translation Theory Formal Equivalence, Dynamic Equivalence,

Evaluation and Community

J. David Reid

◆第7号 (1995)

序——モダナイゼーションかポスト・モダンか

大木英夫

自由の伝統について

大木英夫

マルチメディアパソコンによるLL授業の展開

寺田正義

宗教、経済、倫理——その相互関係の社会理論的・存在論的分析

ベーター・コスロフスキー

シンポジウム「宗教・経済・倫理」

(司会) 土方 透

ベーター・コスロフスキー

(コメンテーター) 山脇直司

(コメンテーター) 高坂史朗

Milton's Metamorphosis from a Ciceronian Orator to the Pauline

Prophet in *Pro Populo Anglicano Defensio Secunda*

Yuko Kanakubo Noro

A Needs Analysis of the English Program at Seigakuin Univer-

sity and Joshi Seigakuin Junior College

Evert D. Osburn

Goals and Objectives

Kenneth O. Anderson

◆第8号 (1995)

序

『イングランド国民のための第一弁護論』における〈自由〉〈法〉

〈議会〉再考——共同体理念を鍵概念として

野呂有子

黒人奴隷のヴァランタリー・アクションに関する予備考察

柴田史子

自由の伝統とプロテスタンティズム

——ウェーバー、セイバイン、カイパーの理解をめぐって

近藤勝彦

信仰の自由と制度化 ——アメリカのピューリタンを中心に	J・D・リード
政治経済学——社会的決定システムの理論および政治哲学 ——対話としての市場と民主主義・対話による社会調整の限界	ペーター・コスロフスキー
理念と利害関係 ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の 社会学理論への貢献について——アメリカ社会学が逃がした機会	スティーブン・コールバーク
Ideas and Interests	Stephen Kalberg
On the Theoretical Contributions of Weber's "Protestant Ethics" ——American Sociology's Lost Opportunities	Stephen Kalberg

◆第9号 (1996)

序——「自由の伝統の再検討」	大木英夫
I	
近代日本における国家と宗教	酒井文夫
国際シンポジウム「自由の伝統の再検討」 ——ソ連崩壊後の「自由」諸国の問題と課題	
英国における教育——自由の伝統	グラハム・ハウズ
シンポジウム「自由の伝統の再検討」	
①イギリスの高等教育における自由の伝統	グラハム・ハウズ
ハウズ教授へのコメント	飯坂良明
②英米における自由の「出エジプト」的伝統	チャールズ・ブロック
ブロック教授へのコメント	永岡 薫
③今日のアメ리카における自由	ジョン・F・ウィルソン
ウィルソン教授へのコメント	渡邊守道
④シンポジウム討議	
ウェーバー理論における「市民的自由」	田中豊治
II	
マックス・ヴェーバーにおける死の理解	コンスタンス・ザイファート (荒木忠義訳)
ドイツにおけるマックス・ヴェーバー研究の現状	コンスタンス・ザイファート (茨木竹二訳)
オックスフォード版・ジョン・ロック『パウロ書簡注解』編著序文	A・W・ウエインライト (大澤 麦訳)
I	
近代化のあいまいさとモダンの神学的更新 ——日本の社会と教会の視点から	近藤勝彦
III	
International Symposium on the Tradition of Liberty	

Education in England: The Tradition of Liberty

- Graham Howes
1. The Tradition of Liberty in Higher Education in England
Graham Howes
Comments on Prof. Howes's Lecture Yoshiaki Iisaka
2. The Exodus Tradition of Liberty in England and America
Charles Brock
Comments on Prof. Brock's Lecture Kaoru Nagaoka
3. Freedom in Present-day America John F. Wilson
Comments on Prof. Wilson's Lecture

Morimichi Watanabe
Die Zweideutigkeit der Modernisierung und die theologische
Erneuerung der Moderne aus der Sicht der japanischen Gesell-
schaft und Kirche Katsuhiko Kondo

Übersetzung: Tadayoshi Araki

- The Concept and Development of Program A in the Seigakuin
English Program Dale T. Griffiee
The Concept and Development of Program B in the Seigakuin
English Program Evert D. Osburn
The Concept and Development of Program C in the Seigakuin
English Program Kenneth O. Anderson

◆第10号 (1997)

序——封建的なものと市民社会的なもの 大木英夫

I

今日の英国における教会と国家 グラハム・ハウズ

アメリカ憲法修正第一条——特に宗教条項をめぐる

ジョン・F・ウィルソン

法における自由——近代的民法典を中心にして 大木雅夫

デモクラシーの現代的展開に向けて——人間性と政治を中心に——

千葉 眞

II

オックスフォード版・ジョン・ロック『パウロ書簡注解』編者序文

II A・W・ウェインライト (荒木忠義・野呂有子訳)

III

International Seminar on the Tradition of Liberty

1. Church and State in England Today G. Howes

2. First Amendment Issues J. F. Wilson

Innovation in English Language Instruction SEP

W. G. Kroehler

Rationale for and Development of the SEP Vocabulary List

E. D. Osburn

◆第11号 (1997)

序文——古代都市ローマ、そして現代の都市化 大木英夫

I

シンポジウム 埼玉の21世紀のまちづくりを考える

第一部 基調講演 恒松制治

第二部 パネル・ディスカッション

コーディネータ 佐々木信夫

パネリスト 植木義展

大塚 博

田中芳樹

前田信雄

村上公久

アドバイザー 恒松制治

(発音順)

II

「ドイツ的自由」の問題性——ドイツ的自由の理念の思想史的考察

安酸敏真

都市生活と不安——阪神・淡路大震災後の社会過程と社会問題の発

展 浦野正樹

「政令指定都市ビジョン」について——「三市合併・政令市研究会報告書」より

小林 真

埼玉県長期ビジョン——21世紀の豊かな彩の国づくり 利根川啓一

III

スティグマ (聖痕) とカリスマ——社会の境界行動について

ウォルフガング・リップ (土方 透訳)

「プロテスタンティズムの倫理」論文の両成稿——比較解説の必然性と有効性

ヨハネス・ヴァイス (茨木竹二訳)

IV

Seigakuin English Program の導入と評価 吉竹ソニア

Matching the SLEP Placement Test to a One Year Core EFL Curriculum 4: A Research Proposal

Brent Culligan and Greta Gorsuch

Die beiden Fassungen Protestantischen Ethik: Notwendigkeit und Nutzen einer vergleichenden Lektüre Johannes Weiß

◆第12号 (1998)

序文 「第二の敗戦」

大木英夫

I

- シンポジウム 自由の伝統と市民社会
 市民社会あるいは Civil Society 論 加藤 節
 「自由の伝統」と A・D・リンゼイの「市民社会」論 永岡 薫
 市民社会の構造原理としての契約 大木英夫
 開発主義と動員現象——近代日本における市民社会の問題

八木紀一郎

- ジョージ・ローソンのリヴァイアサン批判 大澤 麦
 感染教育とキリスト教教育——折口信夫から八木重吉へ 濱田辰雄

II

- M・ヴェーバーの「市民経営的資本主義」概念 田中豊治
 パネンベルクの神論 深井智朗
 キエルケゴールのキリスト教理解について 深井智朗
 エホバの証人の輸血拒否とインフォームド・コンセント 市川 昇

◆第13号 (1998)

- 序文——研究者を育てる研究所 大木英夫

I

- シンポジウム 「これからの環境政策を考える」
 第一部 基調講演 資源環境型社会の建設と公共政策 寄本勝美
 第二部 パネル・ディスカッション コーディネータ 大山礼子
 パネリスト 島村慎市郎
 佐々木信夫
 村上公久
 アドバイザー 寄本勝美

- 国際シンポジウム 「グローバリゼーションとローカリゼーション」
 制度上の文化比較基礎としての社会科学の Kategorii の土着をめぐる諸問題 ハンスユルゲン・ダーハイム (圓岡偉男訳)

- 社会の近代化と国家アイデンティティの動態
 オットハイン・ラムシュテッド (皆川宏之・東 尚志訳)

- 生活世界の構造と社会主義崩壊後の変化
 イルヤ・スルパール (青山治城訳)

- コメント 宮島 喬
 八幡康貞

討 論

II

- ミルトンの市民社会論 新井 明
 オリヴァー・クロムウェルの「信仰の自由」とナショナリズム

澁谷 浩

- ジョン・ロックにおける自然法と功利主義 三浦永光

- ジョン・ロック著『パウロ書簡注解』序文 (野呂有子/大澤 麦訳)

III

- ジョージ・ローソンとジョン・ロック——コミュニティ・コモンウ
ェルス・政治権力 大澤 麦
- Finis Christianismi —F・オーファーベックにとってのキリスト教
の問題 深井智朗
- ウェストミンスター神学会議における独立派の教会論 佐野正子
- ラインホルド・ニーバーにおける「Freedomの神学」としての
人間論 久保島理恵
- A Literature Review of Motivation and Second Language Ac-
quisition Dean Sotherden
- Evaluating the use of the SLEP Test in One Year Core EFL
Curriculum in Japan Brent Culligan and Greta Gorsuch

◆第14号 (1998)

- 序——「神への知的な愛」の共同体 大木英夫
- I
ヘーゲルにおける理性的なものと現実的なもの 山辺知紀
- アダム・スミスにおける人間・社会・国家 妹尾剛光
- アメリカの市民社会と国家——歴史的考察 有賀 貞
- II
国際シンポジウム「南北朝鮮の現状を語る」 池 明観
鐸木昌之
河上民雄
秋元千明
- ジョン・ロック著『ガラテヤ人への手紙注解』大澤麦／野呂有子訳
平川祐弘著『和魂洋才の系譜』をめぐって 鵜沼裕子
- III
F・W・ニーチェとリッチェル学派
——ニーチェにおけるキリスト教の問題 深井智朗
- 初期パネンベルクにおける「神」の問題(2) 深井智朗
- 患者(エホバの証人)の意思に反して輸血をした医師らの法的責任
——東京地裁判決平成9年3月12日について 市川 昇

◆第15号 (1998)

- 序 「自由の問題」に焦点を合わせて行く 大木英夫
- I
ルソーにおける市民社会と国家 阪上 孝
- ヴェーバー理論における市民社会と国家 田中豊治
- イギリスを手がかりとして
イギリスにおける中産層とアソシエーション 梅津順一

- 市民社会論への一視角
 イギリス「経験論」とジョン・ロック政治「哲学」 永岡 薫
 ——市民「社会」的國家としての「コモンウェルス」構想の力と
 道筋（方法）
 トクヴィルとヴェーバー
 ——アメリカ民主主義の政治文化にみる「市民」の社会学的起
 源 スティーヴン・コールバーク

II

- シンポジウム・21世紀の都心づくりを考える
 第一部 基調講演 21世紀の都市づくりを考える 石原信雄
 政策提言 21世紀の都市づくりと大都市づくり
 佐々木信夫
 第二部 パネル・ディスカッション
 石原信雄／佐々木信夫／大西 隆／宮田保夫
 宮崎絢子／森野美徳／大森達也
 渡邊正人

古事記の世界

- 神・人・世界観をめぐって
 現代日本に起こっていることは何か 大木英夫
 人間福祉学における2、3の研究課題について 郡司篤晃

III

- 内村鑑三における再臨運動とデモクラシー批判の問題 近藤勝彦
 いのちの尊さとは？——ひとりの医者からの立場から 松村豪一
 絶対的な Theologumenon としての世俗化なのか？——H・ブルー
 メンベルクのキリスト教理解について 深井智朗
 [資料と解説] ジョン・ワイルドマン『イングランド自由民による
 軍の全兵士への呼びかけ』 大澤 麦
 Preparing the Seigakuin English Program (SEP) for the 21
 Century Evert Osburn
 A Commentary On Contemporary American Society and the
 Amish Dean Sotherden
 The Effects of Repetition on Listening Comprehension
 Mehran Sabet

- 聖学院大学大学院政治政策学研究科1997年度修士論文題目一覧
 総合研究所研究所10年の歩み
 総合研究所紀要総目次（1～15号）
 総合研究所 Newsletter 総目次（Vol. 1-1～Vol. 8-4）